

イエス復活の意味

原田元道

復活と救い主(メシア)

- ・ 復活がなければ、イエス様の救い主(メシア)像は受け入れられなかった
 - 当時の「救い主」のイメージは政治的な解放者
←救い主が(十字架で)死ぬことは有り得ない
 - 当時の「救い主」のイメージはあくまで普通の人間
←多くの奇跡を行ったり神の子(御子なる神)である必要はなかった(参考：ヨハネ 7:31; マタイ 22:41-46)
 - 神様がイエス様を復活させたことで、イエス様が本物の救い主だと証明された
 - ・ 復活は救い主(メシア)に関する預言の成就でもある
 - 旧約聖書の預言の成就(使徒 2:24-32, 33-36 など)：「ダビデは預言者だったので、彼から生まれる子孫の一人をその王座に着かせると、神がはっきり誓ってくださったことを知っていました。そして、キリストの復活について前もって知り、／『彼は陰府に捨てておかれず、／その体は朽ち果てることがない』／と語りました。神はこのイエスを復活させられたのです。わたしたちは皆、そのことの証人です。」(使徒 2:30-32 [詩編 16:10])
 - イエス様自身の預言の成就(マタイ 16:21; 17:22-23; 20:17-19)：「今、わたしたちはエルサレムへ上って行く。人の子は、祭司長たちや律法学者たちに引き渡される。彼らは死刑を宣告して、異邦人に引き渡す。人の子を侮辱し、鞭打ち、十字架につけるためである。そして、人の子は三日目に復活する。」(マタイ 20:18-19)
- ⇒復活は、イエス様こそが真の救い主(メシア)であることを意味する

復活と救い

- ・ 復活がなければ、「死」の支配からの解放がない
 - 罪の報酬は死(ローマ 6:23)
←霊的な死(神様との絆の断絶)だけでなく肉体的な死も含む(参考：ローマ 5:12-21)：「このようなわけで、一人の人によって罪が世に入り、罪によって死が入り込んだように、死はすべての人に及んだのです。すべての人が罪を犯したからです。…一人の罪によって、その一人を通して死が支配するようになったとすれば、なおさら、神の恵みと義の賜物とを豊かに受けている人は、一人のイエス・キリストを通して生き、支配するようになるのです。」(ローマ 5:12, 17)
 - 死の支配から解放される(完全な)救いは、終わりの時に朽ちない身体をもって復活し、新しい天地で神様と永遠に生きることで実現(参考：I コリント 15:20-28, 51-57；黙示録 21:1-4)：「しかし、実際、キリストは死者の中から復活し、眠りについた人たちの初穂とされました。死が一人の人によって来たのだから、死者の復活も一人の人によって来るのです。…ただ、一人一人にそれぞれ順序があります。最初にキリスト、次いで、キリストが来られるときに、キリストに属している人たち、次いで、世の終わりが来ます。そのとき、キリストはすべての支配、すべての権威や勢力を滅ぼし、父である神に国を引き渡されます。…最後の敵として、死が滅ぼされます。」(I コリント 15:20-21, 23-24, 26)
- イエス様は私たちの「初穂」として復活された
- ・ 死の支配からの解放は、イエス様が復活した時から既に始まっている
 - 神様はイエス様をよみがえらせ全てを支配する権威を付与：「神は、この力をキリストに働かせて、キリストを死者の中から復活させ、天において御自分の右の座に着かせ、すべての支配、権威、勢力、主権の上に置き、今の世ばかりでなく、来るべき世にも唱えら

れるあらゆる名の上に置かれました。」(エフェソ 1:20-21 ; 比較 : マタイ 28:18)

- 完全な勝利・支配がもたらされるのは終わりの時 : 「死も陰府も火の池に投げ込まれた。この火の池が第二の死である。」(黙示録 20: 14 ; 比較 : I コリント 15:24-26)

⇒復活は、神様が救いを成し遂げたこと(イエス様を信じる者が永遠の命を持つこと)を意味する

復活と希望

- ・ 復活がなければ、この世で生きる希望をもつのは難しい
 - この世で苦難はつきもの
 - ←イエス様御自身が最も苦しまれた
 - ←イエス様を信じる者はこの世に属していない : 「世があなたがたを憎むなら、あなたがたを憎む前にわたしを憎んでいたことを覚えなさい。あなたがたが世に属していたなら、世はあなたがたを身内として愛したはずである。だが、あなたがたは世に属していない。わたしがあなたがたを世から選び出した。だから、世はあなたがたを憎むのである。」(ヨハネ 15:18-19)
 - イエス様はこの世に対する勝利者 : 「これらのことを話したのは、あなたがたがわたしによって平和を得るためである。あなたがたには世で苦難がある。しかし、勇気を出しなさい。わたしは既に世に勝っている。」(ヨハネ 16:33)
 - 勝利者なるイエス様が今も生きて共にいてくださる : 「わたしは天と地の一切の権能を授かっている。…わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」(マタイ 28:18, 20)
 - 苦難を経験したイエス様が苦難の中にいる私たちと共にいて守り導いてくださる
 - ・ たとえこの世で苦しみや悲しみを体験しても、終わりの時に復活する希望がある
 - 終わりの時は、死者がよみがえる時 : 「兄弟たち、既に眠りについた人たちについては、希望を持たないほかの人々のように嘆き悲しまないために、ぜひ次のことを知っておいてほしい。イエスが死んで復活されたと、わたしたちは信じています。神は同じように、イエスを信じて眠りについた人たちをも、イエスと一緒に導き出してくださいませ。」(I テサロニケ 4:13-14)
 - 死んで終わりではない
 - 終わりの時は、正しい裁きがなされる時 : 「わたしはまた、死者たちが、大きな者も小さな者も、玉座の前に立っているのを見た。幾つかの書物が開かれたが、もう一つの書物も開かれた。それは命の書である。死者たちは、これらの書物に書かれていることに基づき、彼らの行いに応じて裁かれた。」(黙示録 20:12)
 - 復讐は神様のもの、善をもって悪に打ち勝つ(参考 : ローマ 12:19-21)
 - 終わりの時は、新しい天地で神様と永遠に生きる時 : 「わたしはまた、新しい天と新しい地を見た。最初の天と最初の地は去って行き、もはや海もなくなった。…そのとき、わたしは玉座から語りかける大きな声を聞いた。『見よ、神の幕屋が人の間にあって、神が人と共に住み、人は神の民となる。神は自ら人と共にいて、その神となり、彼らの目の涙をことごとくぬぐい取ってくださる。もはや死はなく、もはや悲しみも嘆きも労苦もない。最初のものは過ぎ去ったからである。』」(黙示録 21:1, 3-4 ; 比較 : イザヤ 65:16-25)
- ⇒復活は、この世で生きる私たちが絶えず希望をもてることを意味する